

平成18年度「専修学校社会人新キャリアアップ教育推進事業」成果報告書

事業名	医療実務マネジメントに関する教育プログラムの実践		
法人名	学校法人中央情報学園		
学校名	中央情報専門学校		
代表者	理事長 岡本 比呂志	担当者 連絡先	溝上 太平 TEL:048(474)6651
<p>1. 事業の概要</p> <p>本事業の背景には、高齢化の進展と医療費の増大によって医療機関の経営環境がますます厳しさを増している現状の中で、国民の医療ニーズに的確に対応できる医療機関の経営が強く求められていることがある。科学的なマネジメントに基づく経営と、そうした経営を実践できるプロフェッショナルとその養成が強く求められている中で、本事業は、異業種のマネジメント人材が医療業界のマネジメント層にキャリア転換したり、異業種の企業が医療機関の経営に役立つ事業を創造したりすることを支援する教育プログラムを構築・実施した。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>本事業は、当学園が平成17年度において文部科学省より委託された「専修学校社会人キャリアアップ教育推進事業、医療機関における実務マネジメント人材を育成するプログラムの開発と実証」(以下、「17年度事業」)に継続する性格を持っている。17年度事業はカリキュラムの構築が主体の事業であり、320時間に及ぶ膨大なカリキュラムを構築し、その有効性を確認するものであった。</p> <p>本事業では、17年度事業で設定した4分野(医療業界の基礎知識と経営理念、医療機関の経営管理実務、医療業界を取り巻く社会的環境と医療マネジメント、医療業界を取り巻く経済的環境と医療マネジメント)の中核に相当する内容から講座を企画・実施することによって、同事業の成果を最大限に活かすことができた。また、本事業で実施した講座の実証結果から、17年度事業で構築したカリキュラムの有効性を再確認することができた。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>構築したプログラムに基づく講座は、平成18年12月から平成19年2月にかけて、合計8つの講座を実施した。また、講座の様子はビデオに撮り、eラーニングコンテンツ化して、希望者に受講してもらった。その結果、4つの領域のそれぞれについて、次のような成果を上げることができた。</p> <p>●領域1 医療業界の基礎知識と経営理念、「医療市場の変化と医療産業イノベーション」 40代以上の受講者が80%を占める延べ21名が受講した。「専門性の高さ」、「興味深さ」、「将来への役立ち感」について、90%以上の受講者がポジティブな反応を示した。</p> <p>●領域2 医療機関の経営管理実務、「病院経営の現状と将来」 40代以上の受講者が80%を占める延べ40名が受講した。「専門性の高さ」、「興味深さ」に点において、90%前後の受講者がポジティブな反応を示した。大規模病院の経営という身近とはいえないテーマのせい、か、「目的の明瞭性」、「役立ち感」については、60%程度のポジティブな反応に留まった。</p> <p>●領域3 医療業界を取り巻く社会的環境と医療マネジメント、「在宅医療の現状と将来」 40歳未満が70%を占めるという意味では今回の対象領域の中で最も若い層の受講者延べ31名が受講した。「すぐ役立つ」のみ70%のポジティブな反応で、それ以外の「専門性の高さ」、「興味深さ」、「目的の明瞭性」、「将来への役立ち感」、いずれも90%以上がポジティブな反応を示した。</p> <p>●領域4 医療業界を取り巻く経済的環境と医療マネジメント、「中小病院の生き残り戦略」 40代以上の受講者が60%を占める延べ30名が受講した。「すぐ役立つ」のみ70%のポジティブな反応で、それ以外の「専門性の高さ」、「興味深さ」、「目的の明瞭性」、「将来への役立ち感」、いずれも90%以上がポジティブな反応を示した。特に、「専門性の高さ」については「大いにそう思う」が群を抜いて高く、今回の4つの領域の中で最も高かった。</p> <p>以上のように、医療マネジメントの幅広い領域について実施した結果、40代以上の受講者の多くが講座の内容を評価する成果を上げることができた。</p>			

③今後の活用

17年度の事業に引き続いて本事業を実施したことにより、医療マネジメント人材育成講座の外形・内容共に固まった現在、このカリキュラムを、何らかの枠組み(専門職大学院、生涯学習講座)の上で実施する方向で活用を図る。

④次年度以降における課題・展開

③で述べた活用を図る上では、本事業で講座を開発・実施した領域以外における講座を開発する必要があり、次年度以降においてはそのような開発事業を推進する課題が残されていると認識している。

3. 事業の実施に関する項目

①キャリアアップ講座の実施

本事業で構築した教育プログラムは予復習も含めると72時間に及ぶもので、そのあらまは次のとおりである。

●領域1 医療業界の基礎知識と経営理念

異業種の人材にとっての総論として位置づけ、「医療市場の変化と医療産業イノベーション」と題する講座を1つ実施した。

●領域2 医療機関の経営管理実務

様々な技法を必要とする大規模病院の経営管理を題材に、「病院経営の現状と将来」と題する講座を3つ実施した。

●領域3 医療業界を取り巻く社会的環境と医療マネジメント

高齢化の進展に伴う医療費増大を抑制する対策として講じられている在宅医療の分野を取り上げ、「在宅医療の現状と将来」と題する講座を3つ実施した。

●領域4 医療業界を取り巻く経済的環境と医療マネジメント

経営環境の厳しさをまともに受け、最も経営が難しいとされる中小病院経営にスポットを当て、「中小病院の生き残り戦略」と題する講座を1つ実施した。

②その他

本事業の各講座は、各テーマに相応しい講師陣を配することができたところに大きな特色がある。すなわち、

- ・「医療業界の基礎知識と経営理念、医療市場の変化と医療産業イノベーション」は、同分野において有名で、著書も多数ある、東京大学の薬学系研究科客員教授木村廣道氏、
- ・「医療機関の経営管理実務、病院経営の現状と将来」は、わが国を代表する病院でもある日本赤十字社医療センター業務部長である竹下修氏と、同医療センターと共に活動されている河村泰弘氏、
- ・「医療業界を取り巻く社会的環境と医療マネジメント、在宅医療の現状と将来」は、認知症の専門家として、自ら在宅医療に日夜奮闘されているたかせクリニック院長高瀬義昌氏、及び、東京都心部で在宅医療も展開するえびす英クリニックの事務長である網屋修博氏、
- ・「医療業界を取り巻く経済的環境と医療マネジメント、中小病院の生き残り戦略」は、医療機関の再生に多大な実績を持ち、現在自ら病院経営の一端を担っている株式会社アスティルの阿部賢則氏、である。